（別紙様式３）

令和２年３月 31 日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　　愛媛県松山市一番町四丁目４番地２
管理機関名　愛媛県教育委員会
代表者名　　三　好　伊佐夫

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

１　事業の実施期間
令和元年７月２日（契約締結日）～　令和２年３月 31 日

２　指定校名・類型
学校名　　愛媛県立松山東高等学校
学校長名　村上　敏之
類型　　グローカル型

３　研究開発名
東高がんばっていきましょい　－グローバルからグローカルへの挑戦－

４　研究開発概要
地域人材育成に資する地域課題の解決等に向けた持続可能な研究（以下「地域課題研究」）を中心とした教育課程の研究開発
（１）グローカル・リーダーを育成するための地域課題研究プログラム開発【グローカル明教】
本校や松山、愛媛の歴史、愛媛の海外進出企業の研究をするとともに、松山市及びまつやま圏域の課題克服と魅力発信のための広範囲・高水準の研究テーマ群について、産官学の連携した協力の下、協働的研究に取り組ませ、資質・能力を伸ばす。
（２）課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発【坊っちゃんタイム】
ア　英語の授業において５年間のＳＧＨ事業の成果を生かし、高いレベルのディスカッション力、ディベート力等を身に付けさせる、実践的な「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」の授業を行う。
イ　内容言語統合型学習（Ｅａｓｔ　ＣＬＩＬ）を実施する全ての教科で、言語活動を充実させる。英語以外の教科を英語で学ばせることにより、語学力向上と異文化

理解の深化を図るとともに、思考力・判断力・表現力・分析力を育成する。

（３）学校環境のグローバル化

ア　ＳＧＨ部の活用

イ　海外修学旅行による体験的語学研修促進

ウ　海外留学及びアジア高校生架け橋プロジェクトを含む海外の留学生受入れ促進

エ　県内留学生、本県を訪れる海外高校生との交流

オ　俳句の研究・発信、俳句による海外交流、中高連携

カ　ＩＣＴ活用による情報活用能力、情報発信能力の育成

（４）ＳＧＨで培ったネットワークに松山市を加え、発展させたコンソーシアムの構築

ア　松山市を中心にした新たな教育資源を開拓

イ　新たな産官学連携のためのコンソーシアム構築

ウ　松山市内の高校生と連携し、地域課題を議論する「松山市高校生地方創生会議」の主催

エ　「中四国ＳＧＨ高校生会議」を発展させた「中四国高校生地方創生会議」の主催

オ　他校でも実施可能な地域協働による課題研究プログラムの開発

５　教育課程の特例の活用の有無

○適用範囲：第１学年全生徒

教科：情報　科目：「情報の科学」　単位数１単位（標準単位数２単位）

○適用範囲：第２学年（年次進行で実施）普通科　グローカルコース

教科：保健体育　科目：「保健」　単位数１単位（標準単位数２単位）

「総合的な探究の時間」（グローカル明教）をそれぞれの学年において２単位時間で実施

６　管理機関の取組・支援実績

（１）実施日程

業務項目	実施日程											
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
コンソーシアム					○							○
海外交流アドバイザー				○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域協働学習実施支援員				○	○	○	○	○	○	○	○	○
運営指導委員会					○							○

（２）実績の説明

①　コンソーシアムの構成、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の配置について

ア　コンソーシアムの構成

機　　関　　名	機関の代表者名
松山市教育委員会生涯学習政策課	課　長　　重松　一禎
松山市総合政策部企画戦略課	課　長　　田中健太郎
愛媛大学社会共創学部	学部長　　西村　勝志
松山大学人文学部	学部長　　山田　富秋
いよぎん地域経済研究センター	社　長　　重松　栄治
えひめ地域づくり研究会議	代表運営委員　　山本　　司
公益財団法人常盤同郷会	理事長　　山崎　　薫
愛媛県社会福祉事業団	理事長　　仙波　隆三
愛媛県教育委員会高校教育課	課　長　　和田　真志
愛媛県立松山東高等学校	校　長　　村上　敏之

イ　海外交流アドバイザーの配置

氏名：村上美智子（海外経験豊富、５年間の本校ＳＧＨの海外交流アドバイザー）

（非常勤職員として雇用）７月～１月　月４回本校で勤務

氏名：梶原　春菜（海外事情に精通、元京都大学法学研究科助教）

（非常勤職員として雇用）２月～３月　月４回本校で勤務

ウ　地域協働学習実施支援員の配置

氏名：嶋村　美和（元京都大学東南アジア研究所研究員、元ＳＧＨ特別非常勤講師

「愛媛の国際化」「フィールドワーク入門」等担当）

（非常勤職員として雇用）月６回本校で勤務

②　管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

ア　職員体制に関する支援

(ｱ) 海外研修の実績を有するなど、優秀な教員の配置

(ｲ) 事業実施に係る教員の加配（非常勤講師１人）

(ｳ) ＡＬＴ（外国語指導助手）の配置（１人）

イ　取組内容に関する支援

(ｱ) アデレード短期留学プログラムにおける引率教員経費負担（１人）

(ｲ) ＡＬＴの資質向上支援（外国語指導助手招致事業費）

(ｳ) 高校生海外留学フェア開催

(ｴ) 生徒のディベート力の向上支援（英語ディベート・コンテスト開催事業費）

(ｵ) 生徒の国際交流支援（高校生国際交流促進事業費）

(ｶ) 研究に係る費用を優先して令達

ウ　関係機関との連絡調整等

(ｱ) 高大連携プログラム等を円滑に実施するため、大学、企業等との連携支援

(ｲ) 海外フィールドワークにおける現地との交渉の支援

エ　運営に関する支援

(ｱ) 運営指導委員会の開催

年２回実施（８月 29 日、３月５日）

(ｲ) コンソーシアムの開催

年２回実施（８月 29 日、３月５日）

(ｳ) えひめスーパーハイスクールコンソーシアムの開催（発表と意見交換）

③　事業終了後の自走を見据えた取組について

ア　コンソーシアムの継続

コンソーシアムの継続を図り、地域との協働による学習環境を整備するとともに、そのネットワークを他校へ波及させていく。

イ　海外交流の支援

海外フィールドワークや海外語学研修、海外高校生との交流を継続的に実施するための支援を行う。

ウ　教職員への支援

研修の機会の確保や人的支援により、教職員のスキルアップを行う。

④　高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

松山市とは、現在円滑な情報交換と協力体制が構築されており、今後とも、担当

者と連絡を取りながら、より効果的な事業運営を推進する。

7　研究開発の実績

（1）実施日程

業務項目	実施日程											
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
ア　グローカル明教				○	○	○	○	○	○	○	○	○
イ　坊っちゃんタイム				○	○	○	○	○	○	○	○	○
ウ　学校環境のグローバル化				○	○	○	○	○	○	○	○	○
エ　コンソーシアムの構築				○	○	○	○	○	○	○	○	○

（2）実績の説明

①　研究開発の内容や地域課題研究の内容について

ア　グローカル・リーダーを育成するための課題研究プログラム開発【グローカル明教】

(ｱ) グローカル明教Ⅰ（総合的な探究の時間）【グローバルとの出会い】

(a) アイデンティティとグローバル

【目的】坂の上の雲ミュージアム及び公益財団法人常盤同郷会の協力を得て、講演やフィールドワークを通じて、世界で活躍された本校卒業生である秋山兄弟の考え方などを学ぶことにより、愛媛、本校の歴史、伝統、魅力について探究させ、アイデンティティの確立を図る。

【内容】講演及びフィールドワーク

・講演「校歌を学ぶ～本校ゆかりの人物を通して」「これからのよのなかの話をしよう」「世界は広くして余程狭く御座候」

・市内ＦＷ（秋山兄弟生誕地・坂の上の雲ミュージアム）

(b) アジアと愛媛の企業

【目的】学習院大学の教授の指導の下、いよぎん地域経済研究センターの紹介及び助言により、愛媛の企業がグローバル化を進めるための課題とその克服方法について、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどにより探究型学習に取り組ませる。また、フィールドワーク報告会の実施により、グローバル化への理解の深化、問題解決力、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、フィールドワークで知り得た内容を学年全体で共有させる。さらに、グローバルとローカルの懸け橋となる「SDGs」について学習し、「グローカル明教Ⅱ」での学習に繋げていく。また、海外フィールドワークにおいて、県内企業の海外拠点を訪問することにより、グローバルに活躍するために必要な資質・能力を学ぶとともに、フィールドワーク先の現地大学・高校との交流学習を行い、英語での本校・愛媛・日本の紹介や成果発表プレゼンテーション、ディスカッションを行い、高度な語学力・コミュニケーション能力、思考力・判断力・表現力・分析力の育成を図る。

【内容】講演及びフィールドワーク

・講演「企業の見方＆地域産品のマーケティング」「世界共通のゴール『SDGs』の達成に向かって～足元から世界とつながる！～」

・県内企業フィールドワーク（三浦工業・井関農機・住友化学・住友重機械工業･住友林業･アテックス・オカベ）

・海外フィールドワーク（台湾・フィリピン・中国）

・海外フィールドワーク報告会

(ｲ) グローカル明教Ⅱ（総合的な探究の時間）【グローカル課題の発見】

【目的】コンソーシアムの一員である、愛媛大学・松山大学・松山市の協力を得て、地域や世界の持続的な発展のために必要な知見を得るとともに、課題解決のための実践的で協働的な研究活動を行い、グローカル・リーダーとして必要な国際的素養の育成、高度な語学力・コミュニケーション能力や地域マネジメント力（問題発見力・企画立案力・協働実践力）の育成を図る。

【内容】講演及び課題研究

・講演「地域社会の持続可能な発展に向けてー今、なぜグローカル人材が求められるのかー」「いい、加減。まつやま」「笑顔のまつやま　まちかど講座」

・課題研究　19 テーマ　30 時間実施

＜指導方法・指導体制＞大学等から講師を招き、講師が決めた研究テーマと概要から、生徒がそれぞれテーマを選択し、講師と本校教員からの指導を受け、グループごとに課題発掘、調査研究を行い、研究成果を成果発表会でポスター発表する。

＜研究内容＞研究テーマについては、昨年度までのＳＧＨ事業の取組で中心となっていたグローバル課題の解決に向けたテーマに加えて、地域課題の解決につながるテーマの設定を依頼した。

テーマ例：「難民問題についてのワークショップ」「データで比べる日本とスウェーデン」「地域を知る　災害を知る」「プラスチックごみ問題を考える」

＜学習評価＞愛媛大学が高校と協働で作成したルーブリック評価表（「プロセス評価」及び「課題発表評価」）を用いて、講師と本校教員が、それぞれの段階で評価を行っている。

イ　課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発【坊っちゃんタイム】

松山東高校版　内容言語統合型学習（Ｅａｓｔ　ＣＬＩＬ）の実施

【目的】既習事項を英語で学ぶことにより、教科の学習内容の理解をさらに深めるとともに、語学力の強化を図る。また、ペアワーク、グループワーク等を多く取り入れ、発信力やコミュニケーション能力の伸長を図る。さらに、英語によるプレゼンテーションの技能を高める。

【内容】学期毎に１回、２時間で一つの教材を扱う。既習の内容を英語で教材化する。

第１時は、英語担当教員とＡＬＴによるティーム・ティーチングとし、教材の読解・内容理解・言語活動等を行う。第２時は、当該教科担当教員とＡＬＴによるティーム・ティーチングとし、課題学習の発表や実験等に取り組ませ、専門的な視点や知識を補足する。各学期、２科目（各１テーマ）全６テーマで実施する。

１学期	現代社会	「経済とテクノロジー」	家庭「理想の朝食」
２学期	現代文	「英語俳句」	化学「中和滴定」
３学期	数学	「三角比」	保健「感染症の予防」

ウ　学校環境のグローバル化

(ｱ) ＳＧＨ部の活動

グローバル・リーダーとしての資質・能力の一層の伸長を図るため、校内啓発活動、ボランティア活動、国際交流活動等に取り組み、その成果を様々な機会に報告した。

○　校内啓発活動（国際協力を含む）

インターナショナルデーにおける国際交流、市内高校生交流会、ＮＧＯえひめグローバルネットワークとのフェアトレードの啓発活動

○　ボランティア活動

ＮＧＯアジア・キッズ・ケアにおけるボランティア活動、地球人まつり in まつやま・えひめにおけるボランティア活動

○　国際交流活動

skype による交流（トーリーパインス高校（アメリカ））、ビデオレター交換による交流（ウガンダ、シンガポール、台湾、フィリピン、アメリカの高校）

○　対外的交流・コンテスト・大会への参加

愛媛県高等学校国際教育リーダー研修会、チャレンジサマースクール（英語キャンプ）、全日本高校模擬国連大会、全国高校生フォーラム、四国高等学校国際教育生徒研究発表大会、G20 愛媛・松山労働雇用大臣会合　など

(ｲ) その他の取組

○　海外修学旅行による体験的語学研修促進

本年度の修学旅行から、アメリカ（ロサンゼルス）に加えて、シンガポール・マレーシアコースを設定したため、全校生徒の約 2/3 が、在学中に海外を体験できる体制が整った。また、オーストラリアでの語学研修も実施した。

○　留学生の受入れ及び留学の促進

本年度は、長期・短期を合わせて４名の留学生を受け入れた。留学生の受入れをさらに促進するために、ホストファミリー説明会を行い、保護者への啓発活動に努め、本年度は、２件のホストファミリーを確保することができた。また、本校生徒の留学促進のために、「トビタテ!留学ＪＡＰＡＮ」の説明会を実施し、本年度については、４名の生徒が留学した。

○　海外高校生との交流

本年度は、アメリカ（ハワイ）、ドイツ（フライブルク）、中国（香港）、台湾からの高校生を本校に迎え、それぞれ交流活動を行った。１、２年生全員に国際交流の機会を設けることができ、生徒は、大きな刺激を受けることができた。

②　地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

「グローカル明教」において、松山市シティープロモーション課職員による講演、松山市タウンミーティング課主催「笑顔のまつやま　まちかど講座」を利用しての各部署の政策担当者による講義、地域活性化をテーマとした大学教授等よる講演を実施した。また、愛媛大学や松山大学の教授、愛媛県立中央病院の医師、元大学研

究員、松山市総合政策部危機管理課の職員等の指導による課題研究を実施した。

③　地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

課題研究において、そのテーマや系統に応じて、各科目等と連携を図った。地域の食材を生かした食品開発では家庭科や芸術科と、地域防災は地歴公民科や数学科と、商店街の活性化は外国語科と芸術科と情報科が連携し、生徒が、多角的な視点から課題研究に取り組めるように配慮した。

また、Ｅａｓｔ　ＣＬＩＬ（松山東高校版　内容言語統合型学習）では、外国語科と各教科が連携し、ネイティブスピーカーとのティーム・ティーチングによる指導方法を工夫することにより、学習内容の定着と英語でのディスカッション力やプレゼンテーション力の育成を図った。

④　類型毎の趣旨に応じた取組について

グローバルな視点の育成のために、本年度は、松山市産業経済部国際交流課及び松山市国際交流協会の協力の下、松山市の姉妹都市であるドイツフライブルク市のゲーテギムナジウムとの交流活動、愛媛県観光物産協会の協力の下、台湾修学旅行生との交流、日中友好会館の協力の下、香港高校生との交流を行い、１、２年生全員が、海外高校生との交流に参加できる機会を設けた。さらに、駐日欧州連合代表部主催の「ＥＵがあなたの学校にやってくる」では、ベルギー王国大使館の一等書記官が来校し、講義や生徒とのディスカッションを通じて、生徒の国際的素養の育成に努めた。

また、郷土の課題解決に向けては、松山市の全面的な協力の下、総合政策課を中心に、「グローカル明教」での講演や講座の開設、課題研究での講師協力に加え、市民シンポジウム、松山活性化コンテスト、松山市制 130 周年記念すごろく制作及び商店街絵手紙教室への参加など、松山市の魅力や課題について考える機会を設けた。愛媛大学との連携においても、昨年度までのＳＧＨ事業で培ったネットワークを生かし、課題研究での指導や学会での発表などにより、生徒の高いレベルでの知的好奇心の喚起を図った。

⑤　成果の普及方法・実績について

本年度の活動内容は、適宜本校ホームページ上で公開するとともに、８月には、松山市の協力の下、松山市子規記念博物館において、海外フィールドワーク報告会を一般公開で実施した。また、愛媛県教育委員会が主催する「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム」において、活動内容を報告した。さらに、本校での様々な活動は、新聞やＴＶで紹介された。なお、年度末に予定していた研究成果発表会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、中止とした。

⑥　地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制について

本年度の本校の重点努力目標は「グローバル社会に対応する全人教育の実践－輝かしい伝統を受け継ぎ、新たな創造を切り拓く、人間的魅力のあるグローカル・リーダーの育成－」である。主体的・対話的で深い学びの実現を図るとともに、世界と郷土の発展に貢献する志をもった生徒を育てるため、努力目標の下、全校体制で本事業を推進している。カリキュラムは、本事業を運営する校務分掌として新設し

たグローカル（ＧＬ）事業課と教務課が原案を作成し、全教科の教科主任及び関係各課長が参加する教育課程検討委員会での協議を経て、職員会議で決定した。「グローカル明教」の実施方法及び内容等については、ＧＬ事業課で原案を作成し、学年会での協議を経て、職員会議で決定した。

⑦　学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内での位置付けについて）

全校体制の推進を原則とするが、ＧＬ事業課が中心となり、計画立案、本事業の円滑な実施、評価、事業計画の改善を図った。

課題研究全般については、校内に課題研究チームを立ち上げ、ＧＬ事業課の担当者と地域協働学習支援員が、実施方法等を検討し、外部機関との連絡・交渉を行い、研究内容の支援を行った。また、海外交流事業全般については、校内に海外交流チームを立ち上げ、ＧＬ事業課の担当者と海外交流アドバイザーが、海外フィールドワークの企画・立案・交渉、学年団が担当する海外修学旅行の支援、海外留学の促進事業への取組や留学生受入事業等を行った。

⑧　学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

本事業における個々の取組について、全教職員で共通理解を図りながら推進した。講演については、その都度、生徒へのアンケートによる評価を行い、有意義な講演会となるよう検討を重ねた。また、８月末に実施した海外フィールドワーク報告会では、外部の有識者等にも評価を依頼し、次年度の改善策を検討した。さらに、課題研究においては、各担当者からの聞き取りを行い、学年会で議論し、実施内容の確認と改善を図った。２月には、保護者・生徒対象にアンケートを実施し、本年度全体の取組の評価を行い、次年度の実施内容の検討を行った。

⑨　カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

郷土や世界の持続的発展のために貢献できる人材の育成に向けて、コンソーシアムの産官学それぞれの立場から、協力いただいている。

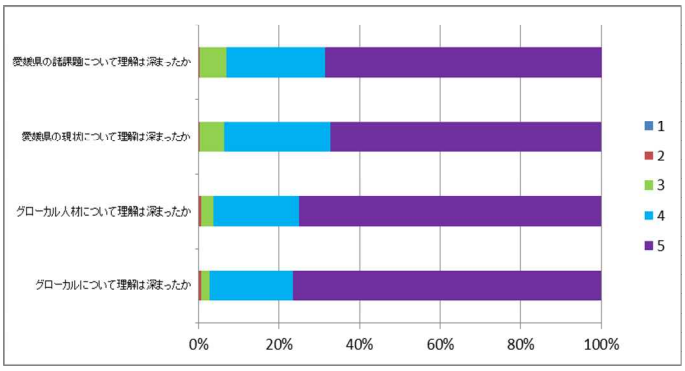
松山市からは、地域の魅力や課題について実務者から直接話を伺い、生徒への意識付けに繋げた。また、愛媛大学や松山大学からは、課題研究の直接的な指導だけでなく、「今なぜグローカルなのか」や「今なぜ SDGs なのか」などのグローカルに係わる根本的な知識や理論を学び、生徒の思考力の向上に繋げた。さらに、各企業からはグローカルに対する取組や、社会貢献の在り方を学ぶ機会を得た。

８　目標の進捗状況、成果、評価

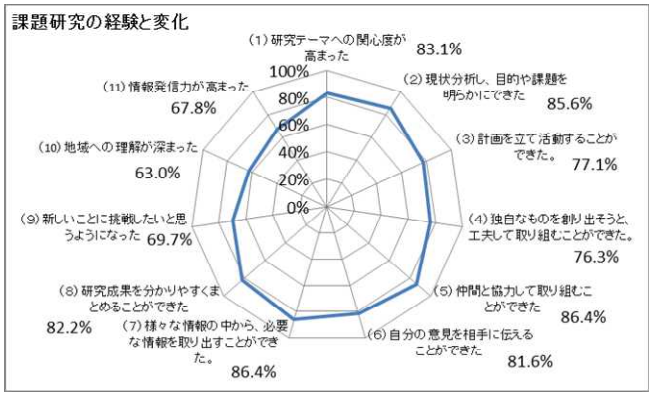
本年度は概ね計画通り研究開発を進めることができた。年度当初から契約を締結するまでの期間も、経費が発生しないように実施内容を工夫したり、本校独自のグローバル人材育成振興会における基金を活用したりして、研究開発に取り組んできた。

本年度は、１年生を対象に、主に「グローカル明教」の時間を活用して、研究開発を進めてきた。コンソーシアムの一員である愛媛大学や松山市の協力の下、講演会や講座を開催し、グローバルな視点の育成や地域理解に資する取組を行い、生徒の思考力や判断力を育むとともに、地域や世界の現状や課題について理解を深めることができ、各講演等の生徒の自己評価も高くなっている。（グラフは、講演会の評価。５段階で評価し、５が最も

高い評価）また、県内企業フィールドワークを行い、地元企業のグローバル化への取組と地域企業としての在り方、地域貢献の考え方を学ぶ機会を設けた。さらに、海外フィールドワークにおいて、県内企業の海外拠点を訪問することにより、グローバルに活躍するために必要な資質・能力を学ばせるとともに、フィールドワーク先の現地大学・高校との交流学習を行い、英語での本校・愛媛・日本の紹介や成果発表プレゼンテーション、ディスカッションを行い、高度な語学力・コミュニケーション能力、思考力・判断力等の育成を図った。また、報告会を通して、フィールドワークで知り得た知見を学年全体で共有するとともに、全校生徒の海外への理解、興味の喚起に繋げることができた。



９月から実施している課題研究では、外部講師と本校教員の連携により 19 テーマで実施することができた。生徒の好奇心を刺激するように、様々な分野のテーマを設定し、協働的研究活動により、地域や世界の持続可能な社会に貢献する意欲や深い教養、課題発見力や問題解決能力・コミュニケーション能力等の育成を図った。地域との協働の下、地域防災、地元商店街の英語での情報発信、英語を用いた地域観光への貢献などにも新たに取り組むことができた。また、愛媛大学や松山市の協力により、研究内容を日本ＥＳＤ学会第１回四国地方研究会や松山防災リーダー育成センター報告会で発表を行った。２月末に実施した課題研究に対するアンケートでは、課題研究を通しての経験や自己の変容について肯定的な評価が多く、多くの生徒が、課題研究に主体的に取り組んでいたことを確認できた。また、来年度設置する２年生のＧＬコースには、定員の 1.4 倍の応募があり、より高度な課題研究に取り組みたいと考える生徒が多いことが分かっている。



学校環境のグローバル化については、本年度、約 290 人の生徒が海外へと飛び立った。本年度から、修学旅行先にシンガポール・マレーシアを加え、さらに愛媛県教育委員会の支援による中国フィールドワークを新たに実施し、在学中に海外研修に参加したいと考える生徒及び保護者の希望に添うことができた。日常の国際交流では、長期・短期合わせて４人の留学生を受け入れ、様々な学校行事を含めて、本校生徒と同じ活動に参加した。特に、長期留学生３人の学習に対する意欲は高く、その積極的な取組は、学校全体に好影響を与えている。また、海外からの研修旅行団を積極的に受け入れ、海外へ行く機会のない生徒にも、国際交流の機会を確保することができた。ＳＧＨ部の活動も、例年以上に活発に行われ、松山市や愛媛県と連携した取組にも自主的に参加し、部員各自の国際性が一層高まった。特に、松山市で開催されたＧ20 愛媛・松山労働雇用大臣会合で、「仕事の未来」について提言を行った体験は、幅広い知識の習得だけでなく、今後の生活の大いなる自信

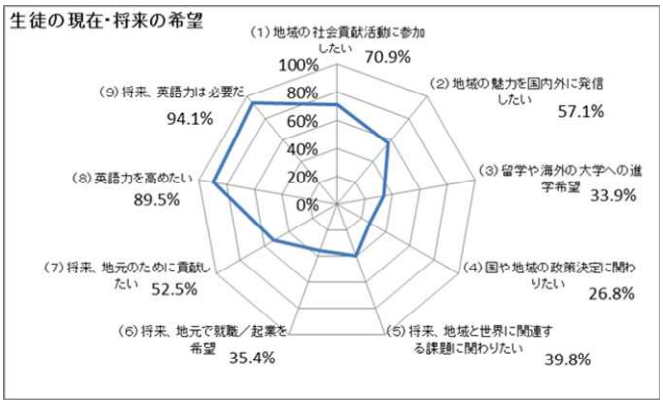
にも繋がった。さらに、生徒主導による４回目の中四国高校生会議に加えて、市内の高校生との定期的な交流会を新たに始めるなど、成果の普及に積極的に努めた。

＜添付資料＞目標設定シート

９　次年度以降の課題及び改善点

（１）コンソーシアムとの協働による生徒の意識の向上に向けた取組

本年度は、コンソーシアムの支援により、円滑に事業を進めることができた。愛媛大学とは、５年間のＳＧＨ事業で培ったネットワークにより、講師派遣や高大接続授業、学会での発表など、多くの協働的な取組を実践することができた。また、松山市とも、市主催イベントへの参加や課題研究の講座開設を通じて、新たな連携を創出することができた。さらに、松山市国際交流協会や愛媛県観光物産協会からの協力を得て、海外高校生との交流活動を多く実施することができた。しかし、生徒対象のアンケートでは、「将来、地域と世界に関連する課題に関わりたい」「将来、地元のために貢献したい」「将来、地元で就職・起業をしたい」と考える生徒の割合が、目標値より低い結果となっている。自由記述の欄にも、「もっと地域でのフィールドワークを増やしてほしい」「自ら活動する場面を増やしてほしい」などの意見があった。課題研究で自ら調査・研究できるが、自ら進んで行動できていない生徒も見られた結果である。生徒がフィールドワークに行きやすい環境づくりとして、１年生の「グローカル明教」において、「笑顔のまつやままちかど講座」を２回に増やし、行政の各分野で活躍されている方々から直接話を聞ける機会や、指導を受ける機会を増やし、地域課題の解決のための志を持った生徒の育成に繋げていく。また、講演を、起業家、一次産業従事者、青年海外協力隊経験者等にも依頼するとともに、生徒の地域に貢献する意識の高揚を図るため、本年度以上に地域協働学習支援員及びコンソーシアムの方々の協力を仰ぐこととする。



（２）課題研究の指導

来年度は、指定期間終了後を見据えて、１年生の課題研究では、本校教員が指導を行っていく。本年度外部講師中心で行ってきた課題研究の取組をベースにして、課題研究委員会で議論して実施していく。アンケートの中に、「もっと自由にテーマ決定をしたい」「希望のテーマを選ぶことができなかった」などがあった。研究グループ分けに工夫を行い、より自由なテーマ設定ができるようにしていきたい。また、高校教員が行う強みを生かすため、地域課題と高校での学習内容がつながるようなアプローチも行いたい。さらには、研究内容のレベルの維持のために、コンソーシアムからの協力を得て、より実践的な取組になるように工夫していく。

（３）活動費の確保と情報の発信

本校では、ＳＧＨ事業指定中に、同窓会が中心となり「松山東高校グローバル人材育

成振興会」が結成され、海外フィールドワーク・海外研修に参加する生徒等への助成、学会、研究会で発表する生徒等への助成、講演会等実施時の講師旅費・謝金、課題研究に必要な書籍等の購入、教育活動に役立つＩＣＴ機器の整備等において支援を受けている。来年度の予算が削減される中、費用が理由で内容の中止や削減を余儀なくされているものがある。生徒の活動への意欲が高い中、活動費の確保は急務である。管理機関である愛媛県の支援をお願いするのはもちろんのこと、本校独自の振興会からの今まで以上の支援が必要になる。そのためには、本校が現在行っている様々な取組を、ホームページ上や新聞・ＴＶ等での発信だけではなく、ＳＮＳ等を通じて、情報発信を行う。グローカル・リーダー育成のための様々な取組について、多くの方々に知っていただく努力をしていくとともに、支援の輪をさらに拡大できるように取り組んでいき、指定期間終了後も、本取組を継続して実施できるような活動費の確保に努めていく。

【担当者】

担当課	高校教育課	ＴＥＬ	089-912-2954
氏　名	野村　竜也	ＦＡＸ	089-912-2949
職　名	指導主事	e-mail	nomura-tatsuya@pref.ehime.lg.jp